

「中国 無人化の流れ」

上海駐在員事務所
舛本 誉人

「ニーハオ！」今回はここ最近、中国のトレンドである「無人化の流れ」についてご紹介します。

中国では今、製造現場での無人化(自動化)もさることながら、消費やサービスの現場で無人化技術が急速に高まっています。特にコンビニエンスストアの消費現場における無人化には、これまで「盗難防止対策」等の課題を抱えていましたが、これらの課題を解決しうる画期的な店舗がオープンしました。

それは上海市の古北エリアにオープンした「簡 24」という無人コンビニエンスストアで、ここではスマートフォンアプリの We-Chat や Alipay 等の支払システムと、顔認証システムを融合させたシステムにより、入店から支払・退店までを全て顔認証のみで完了することができます。

会員登録(支払情報登録含む)と顔認証登録を行うことで、次回以降は顔認証のみで入店が可能となり、支払も店内の商品を店外に持出した時点で予め登録しておいた We-Chat や Alipay から支払が行われます。商品購入時の QR コード読み取りなどの手間は一切なく、支払も自動的に行われるため、「盗難」リスクも無くなります。

また一度手に取った商品を元の棚に戻すことなく別の棚等に置いたまま退店すると、システムが購入と判断する為、陳列商品が散乱するリスクの抑止力としても期待されています。

さて、こうした「無人化の流れ」は銀行業界にも押し寄せています。

中国都市部では著しくスマートフォンアプリが普及しており、個人の各種支払や資金振替等の簡単な手続きは全てスマートフォンアプリで完結することができます。もはや銀行窓口で人を介して取引を行う人がほぼ皆無の状態となっています。

そこに目を付けた中国建設銀行が2018年4月に上海市黄浦区に中国初となる無人銀行店舗をオープンさせました。ここでは「個人口座開設」や「各種証明書発行」、「現金引出」等の取引ができます。

店内への入店は顔認証によるセキュリティチェックがあり、各種手続きや、現金引出等の本人確認等も、顔認証により行われます。

まさに近未来の銀行店舗のあり方を提唱しているかのようなハイテク店舗となっています。

尚、現時点では「外国送金」、「各種ローン」、「資産運用」等の詳細な説明を要する業務については銀行を管理する当局からの指導により、有人店舗で行わなければならないようです。

中国の「無人化の流れ」は、こうした顔認証システムとの融合により今後ますます加速していくものと思われます。今回ご紹介した2つの事例以外にも、顔認証システムは市中の監視カメラ等と連動して行方不明者や犯罪者の搜索、更には犯罪自体の抑止力として、中国政府も導入に力をいれているようです。

この分野で中国の技術が世界を牽引する日は、そう遠くない未来かも知れません。

無人コンビニ「簡 24」の外観



無人コンビニ「簡 24」の顔認証支払システム



中国建設銀行 無人店舗の内観



(2018年7月)